

2020 SUPER GT 第1戦 富士スピードウェイ

2020年7月19日(日)

予選

来場者: 0人

天候: 曇り時々晴れ

2020年SUPER GTシリーズは、当初の予定から3ヶ月遅れて富士スピードウェイで開幕戦を迎えた。新型コロナウイルス感染予防のため無観客レースとなった。スケジュールは、予選と決勝を同日に行うワンデーイベントになり、午前中に予選が行われた。関口雄飛とサッシャ・フェネストラズの新コンビで戦うTGR TEAM au TOM'Sは、コースレコードタイムを更新しつつ、3番手のグリッドを獲得して午後の決勝へ臨むこととなった。

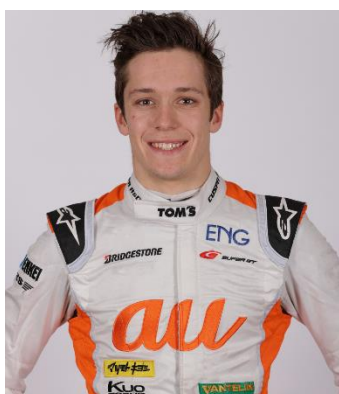


- 関口雄飛が Q1 を担当。コースコンディションは、ハーフウェットからドライへ変化。路面温度があまり上昇していなかったのでソフトタイプのタイヤを装着。8番手タイムを記録して Q2 進出を果たした。
- 昨年の GT300 クラスから今年 GT500 クラスにステップアップを果たした若干 20 歳のフェネストラズが Q2 を担当。
- コースは完全にドライコンディションとなり路面温度も徐々に上昇したのでハードタイヤを装着してフェネストラズはコースイン。
- コースインして 4 周タイヤのウォームアップを行い、5 周目にベストタイムをマーク、コースレコードタイムを更新した。
- チームメイトの TGR TEAM KeePer TOM'S もコースレコードタイムを更新してトップタイムを叩き出した。36 号車は、ホンダ NSX の一台を挟んで 3 番手、二列目のグリッドから決勝をスタートすることとなった。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
サッシャ・フェネストラズ	36	P8		P3	1' 26.794
関口 雄飛			1' 27.409		

天候/路面	曇り時々晴/ ハーフウエット～ドライ
気温/路面温度	24～25℃/29～35℃

サッシャ・フェネストラズ
(36号車ドライバー)



「GT500 クラスにステップアップすることができようやく開幕戦を迎えることができてハッピーだ。緊張しているというよりも、早く本番を迎えたいという気持ちでワクワクしていた。初めて GT500 クラスのマシンでアタックして 3 番手グリッドを獲得できたことは良かったけれど、第 3 セクターで少しマシンのバランスが良くなかった。それがなかったらチームメイトの 37 号車にもっと迫ることができたのではないかなと思う。まずは、大きな問題も無く予選を終えることができたから良かったと思う。これまでのテストや練習走行のロングランでタイムは安定して速いので決勝レースでは良い結果が残せると思っている」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)



「前日の練習走行でタイヤ選択をした時にハードタイヤでもタイムが良かったので、ドライコンディションならハードかなと思っていたのですが、予選の走り出しは、一部の路面が濡れていて路面温度も低かったのでソフトタイヤで走行しました。なんとか Q1 を突破できて良かったです。NSX が Q1 で速かったのですが、かなりソフト目のタイヤを選択しているのではないかなと思っています。われわれは、ハードタイヤでも速さを示しているのので、決勝は順位を上げていきます」

吉武 聡 (36号車エンジニア)



「今年から 36 号車のエンジニアを任されてプレッシャーを感じつつも、テストでしっかりと確認してきたセッティングとタイヤチョイスには自信があったので、天候とコンディションに合わせてセットアップをアジャストして臨んだ予選でした。3 番手グリッド獲得はなんとか及第点をいただけるのではないかなと…。Q2 に向けてセッティングを少し変更したことで第 3 セクターで乗りにくさが出てしまったようです。それがなかったらポールポジションを獲得した 37 号車に迫るタイムが出せたのではないかなと思います。決勝のロングラン

タイムは関口もサッシャも安定した速いタイムで走行できているので、良い結果を期待しています」

東條 カ(チーフエンジニア)



「今シーズンは、36号車、37号車の2台のマシンを俯瞰して見てチーム全体のエンジニアリングを良くする立場となりました。1台のマシンだけを担当すると、どうしてもそれだけに集中してしまうので、今シーズンのポジションでは全体的な視点から良いマシン創りができると思います。2台共にQ2は路面温度が上昇したのでハードコンパウンドタイヤをチョイスしていますが、全く同じタイヤではなく、テストの段階でフィーリングとタイムを分析して各々チョイスしたタイヤでアタックしました。Q2を担当したサッシャが第3セクターで少し問題があったみたいです。エンジニアリングの点で改善する余地があるのと同時に彼のドライビングによって良くなることが必要だと思います。互いに歩み寄ってより良い結果を残せるように努力します。決勝は気温が上がれば、安定したタイムで走行することができるでしょう」

伊藤 大輔 (36号車監督)



「シリーズのスケジュールが変わり、イベントのスタイルも変わった中でようやく迎えることができた開幕戦で3番手のグリッドからスタートできるというのは、上出来だと判断しています。36号車はドライバーのラインナップが変りました。若いサッシャはリスクを犯さない安定した速さを示してくれていますし、雄飛はサッシャをリードする立場での確なフィードバックをしてくれていて、二人のコンビネーションはとても良いと思います。できれば37号車と2台でフロントローに並びたかったですが、それは決勝の楽しみにとっておこうと思います」

館 信秀（総監督）



「気持ちが良い。本当に気持ち良い。長い間待たされたシリーズの開幕戦、その予選でチーム全体がとても良い結果を出してくれた。チームスタッフに感謝している。36号車は、若きサツシャを迎え入れて、チームが自然に彼を迎え入れると同時に彼もうまくチームに溶け込んでくれていると思う。レーシングドライバーとして即速さを示す、結果を残すという点は素晴らしい。関口にとっては、かつて自分が経験したことと逆の立場で良い刺激になっているし、これからこの二人とチームはもっと良くなってゆくことだろうと期待が大いに膨らむ」

2020 SUPER GT 第1戦 富士スピードウェイ

2020年7月19日(日)

決勝

来場者:0人

天候:曇り時々晴れ

新たなドライバーラインナップで臨んだ2020年SUPER GT開幕戦決勝で、チームメイトの37号車に続きTGR TEAM au TOM'Sの36号車は、2位に入ってTOM'Sの1-2フィニッシュを達成した。チームにとって最高の結果でシーズンをスタートすることができた。

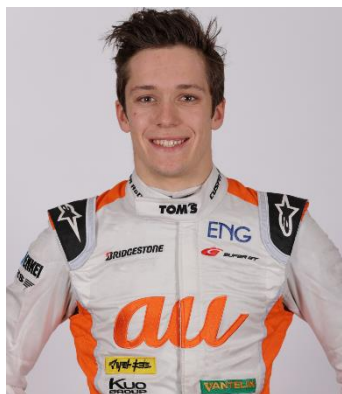


- サツシャ・フェネストラズがスタートドライバーを担当した。
- スタート直後の1コーナーで4番手スタートのNSXがインに飛び込んできたが落ち着いて接触を避けたが、結果4位へ順位を落とした。その直後に後続の車両数台の接触、アクシデントが発生し、セーフティカーが導入された。
- 6周目からレースが再開され、前車に迫って12周目に3位、23周目に2位へ順位アップ。この時点でTOM'Sチームの1-2体制が築かれた。

- フェネストラズは、29 周してピットイン。関口に交代。
- コース復帰直後はトップと約 20 秒の差があったが、37 周目に再びセーフティカーが導入されて 37 号車との差はなくなった。
- 43 周目にレース再開。関口がトップに迫るが、背後からは NSX や他のスープラが迫ってきて関口は巧みにそれらのマシンを抑えて周回を重ねた。
- 2 位を堅守した関口はそのままゴール。TOM'S 1-2 という最高の結果を得た。

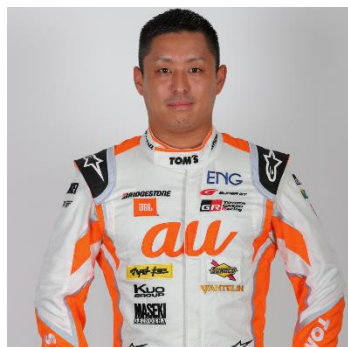
Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
サッシャ・フェネストラズ	36	P2	1' 29.351
関口 雄飛			1' 29.369
天候/路面	曇り時々晴れ/ドライ		
気温/路面温度	26~26℃/39~34℃		

サッシャ・フェネストラズ (36 号車ドライバー)



「初の GT500 クラスのレースで 2 位フィニッシュできてとてもハッピー。とても素晴らしい経験をさせてもらい、多くのことを学んだけれど、もっと、もっと多くを学ばなくてはならない。パートナーからも、そしてチームメイトの 37 号車の二人のドライバーからも学べるという最高の環境に置かせてもらっているので、それがとても楽しみだし、もっと速くドライブしたいと思っている。2 位という結果に満足することなく上を目指して前に進んで行きたい。ウエイトハンディが積まれてどのようなフィーリングになるかは全く分からないけれど、チームとともに次戦でも最高のパフォーマンスを発揮できるように頑張ります。早く次のレースを走りたいという気持ちでいっぱいです」

関口 雄飛 (36 号車ドライバー)



「ワンデーレースで天候の変化とコンディションの変化を把握して、それに合わせる難しさがありました。実はソフト目のタイヤではタイムが良くなかったのが自分のセカンドステントでハード目のタイヤで出られたので良かったです。NSX の 100 号車が迫って来ましたが、なんとか抑えてゴールまで持ち込みました。今後 NSX がうまくまとめてきたら手強くなるでしょうね。僕らには一番近いところに 37 号車というライバルが居ます。そしていつも負けてしまっているのが悔しいです。今シーズンこそは、逆転するという気持ちで次

の富士では頑張ります」

吉武 聡 (36号車エンジニア)



「開幕戦 2 位は、まあ上出来でしょうか。しかし、前に 37 号車のチームメイトがいるので、これ以上は無理なのか、自分たちも同じパフォーマンスを発揮できるのではないかと、うジレンマがあって、それが実現できなかった悔しさもありますね。自分にとって初の GT500 クラスでしたので、反省するべき点も多く、もっと勉強して次戦ではトップを狙いたいと思います。予選でドライバーから指摘された第 3 セクターでのリヤの不安定さは、決勝で燃料を満タンにしてセツトアップも変えてバランスをとったのですが、まだ多少残っていたみたいですので、それをどう克服してゆかかという課題もあります。単独走行では 37 号車に負けているとは思わないので、他車と競った状況でも速さがあるマシンセッティングを施す努力を重ねます」

東條 カ(チーフエンジニア)



「一度ポジションを落としてしまいましたけれど、落ち着いて対処して 2 位までポジションアップしてくれたので 1-2 フィニッシュという最高の結果を残すことができました。若手のサツシャが初めての GT500 クラスのレースでも落ち着いて走行してくれました。そして、雄飛が最後うまくまとめてくれましたね。合同テストで NSX が速かったのが不安もありましたが、TGRさんのエンジンも NSX を上回る速さを示してくれました。今後スープラの各車はウエイトハンディが積まれてだんだんと苦しい状況となるでしょうが、その状況下でも速さを発揮できるマシンに仕上げていきます」

伊藤 大輔 (36号車監督)



「TOM'S チームとしては 1-2 フィニッシュという最高の結果を残すことができたので良かったですが、36 号車としては、チームメイトであっても 37 号車が前にいるということでは、まだまだ頑張らないといけない。37 号車のパッケージ、体勢はこれまで以上に強くなったなと感じています。ドライバー、エンジニアの体勢が変わった 36 号車も好結果を残して開幕戦を終えたいという目標があったので、2 位フィニッシュは、まあ上出来と判断していますが、満足しているわけではありません。GT500 ルーキーのサツシャが一

度順位を落とした後に落ち着いて 2 位へ上がってくれて、走行中に的確なインフォメーションを伝えてくれました。雄飛に代わって、最初はタイヤのフィーリングを掴むのに苦しんでいたようですが、すぐにアジャストしてくれて、終盤は雄飛が後続をうまく抑える彼らしい走りで沸かせてくれました。これからもっと上を目指してゆきます」

舘 信秀（総監督）



「体制変化が多かった 36 号車が 2 位まで上がってきて TOM'S の 1-2 で開幕戦を終えられて嬉しい限りだ。雄飛も頑張ってくれて終盤に迫られても落ち着いて抑え切ってくれた、彼も成長したね。そして二十歳の若きドライバーのサツシャがこれだけのパフォーマンスを発揮してくれて嬉しい驚きでもあった。チームとしては彼をもっと速いドライバーに育てていかななくてはならないという責任も感じている。レースに復活した新しいスープラのデビューウインと 1-2 フィニッシュという最高の結果に対してチームスタッフ達に感謝だ」